



業況DIは2.7ポイントの低下、飲食店が大幅低下、輸送用機器が上昇

～令和4年7－9月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和4年7－9月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇ 要 旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DI、前期3ヵ月後予想よりも上昇 ～

総合の業況DIは、前期比2.7ポイント低下の▲40.4となりました。前期の3ヵ月後見込（▲41.0）よりも0.6ポイント上昇しました。

また、今後については3ヵ月後が現在比0.8ポイント低下の▲41.2（前期の半年後見込▲36.8）、半年後が同2.5ポイント上昇の▲37.9ポイントを見込み、次期については前回の見込より厳しい見方がされています。引き続き、新型コロナウイルス、原材料費・燃料費の高騰や部品不足の影響が続くことを懸念しています。

2. 業種別特徴 ～ 業況DI、飲食店が大幅低下、輸送用機械は上昇 ～

製造業の業況DIは前期比1.6ポイント低下の▲29.8で、前期見込（▲30.9）を上回りました。中分類で見ると、一般機械（同5.5ポイント低下の▲27.6）、電気機械（同2.6ポイント低下の▲19.5）は前期を下回った一方、4期ぶり上昇（同14.4ポイント上昇の▲30.9）の輸送用機械は、トラック等一部の受注回復や海外市場が好調な自動車メーカーの影響もあったと見られます。

建設業の業況DIは同4.5ポイント低下の▲21.3となりましたが、前期見込（▲38.6）は大きく上回りました。

商業・サービス業の業況DIは同2.7ポイント低下の▲51.2で、前期見込（▲47.8）を下回りました。この内訳を見ると、卸売業が同4.0ポイント低下の▲46.7、小売業が同4.3ポイント低下の▲60.9、飲食店が同14.9ポイント低下の▲63.5、サービス業が同7.8ポイント上昇の▲31.6となり、特に飲食店は、前期の大幅な上昇から一転し、今期は新型コロナウイルス第7波の影響で客足が遠のき、大幅な低下となりました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比2.8ポイント低下の▲32.6（前期の半年後見込▲27.8）、建設業が同3.1ポイント上昇の▲18.2（同▲38.1）、商業・サービス業が同0.6ポイント低下の▲51.8（同▲42.0）と、業種によってばらつきがある一方で、半年後は製造業が同1.0ポイント上昇の▲28.8、建設業が同3.0ポイント上昇の▲18.3、商業・サービス業が同3.2ポイント上昇の▲48.0と、いずれも上昇を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 業況DI、中規模・小規模企業いずれも低下 ～

中規模企業の業況DIは前期比4.1ポイント低下の▲33.4、小規模企業のDIは同1.0ポイント低下の▲48.1となりました。売上DIは中規模企業が同6.0ポイント低下の▲21.1、小規模企業が同2.3ポイント低下の▲35.1、採算DIは中規模企業が同3.5ポイント低下の▲39.8、小規模企業が同0.4ポイント上昇の▲44.0となりました。前期、大きく上昇（17.4ポイント）した中規模企業の売上DIは再び低下しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区で前期3ヵ月後見込より上昇 ～

前期より業況DIが上昇したのは3地区（川崎、横須賀、足柄上・西湘）、低下したのは5地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木）でした。このうち横浜、足柄上・西湘を除いた6地区は前期の3ヵ月後見込より上回っています。大幅に低下した横浜地区では、飲食店（前期比17.1ポイント）と建設業（同20.6ポイント）、小売業（同8.8ポイント）が大きく低下していました。

また、3ヵ月後は現在比で相模原、足柄上・西湘の2地区が上昇、その他6地区は現在より低下すると見込んでいます。前期の半年後見込と比較すると、平塚、相模原を除く6地区で下回っており、各地区とも次期は前期の予想より厳しい状況になる見立てをしています。

さらに、半年後は現在比で5地区（横浜、平塚、相模原、厚木、足柄上・西湘）が上昇、3地区（川崎、横須賀、藤沢）で低下を見込んでいます。

地区	今期業況DI（前期比／前期3ヵ月後見込）	増減	同3ヵ月後見込（同半年後見込）	増減	同半年後見込
横浜	▲45.2（7.7ポイント低下／▲39.8）	↓	▲45.3（▲32.4）	↑	▲39.0
川崎	▲30.1（5.7ポイント上昇／▲34.1）	↓	▲38.2（▲30.6）	↓	▲32.5
横須賀	▲39.2（5.1ポイント上昇／▲43.2）	↓	▲46.7（▲46.3）	↓	▲46.7
平塚	▲48.6（2.1ポイント低下／▲49.0）	↓	▲49.5（▲51.0）	↑	▲46.8
藤沢	▲22.5（4.3ポイント低下／▲30.3）	↓	▲26.7（▲25.3）	↓	▲25.7
相模原	▲43.5（6.9ポイント低下／▲48.4）	↑	▲40.2（▲44.6）	↑	▲41.8
厚木	▲38.4（4.8ポイント低下／▲41.8）	↓	▲38.7（▲37.0）	↑	▲37.6
足柄上・西湘	▲49.0（2.0ポイント上昇／▲46.7）	↑	▲38.0（▲37.4）	↑	▲33.0

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では「売上」、「引き合い／客数」が低下。特に飲食店の悪化が顕著 ～

経営状況では、「売上」が前回調査比4.3ポイント低下の▲27.7、「引き合い／客数」は6.8ポイント低下の▲28.8となりました。特に、飲食店では、「売上」が50.2ポイント低下の▲41.9、「引き合い／客数」は▲55.0ポイント低下の▲59.5と大きく低下しました。

主なコメントとして、「コロナウイルス感染拡大第7波の影響で、6月頃客足が戻ってきたように思えたが、予約がほとんどキャンセルとなりました。時短営業協力金も出ず、資金繰りがひっ迫している状況です。」などの声が上がっていました。

新型コロナの感染が再び拡大する中で、売上、客数が減少しているといった声が多く、その他、原材料費・燃料費高騰、部品不足、人手不足に関する声が目立ちました。

【調査要領】

調査時期：令和4年8月

調査対象：県内中小企業2,000社

回答数：1,017社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 上野

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

令和4年7-9月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは2.7ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和4年7-9月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和4年8月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,017社（50.9%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	344	62.5%
建設業	250	122	48.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	551	45.9%
合計	2,000	1,017	50.9%

2. 調査結果

（1）総合

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲38.2	▲39.3	▲37.7	▲40.4	▲41.2	▲37.9
売上DI	▲18.5	▲36.5	▲23.4	▲27.7	—	—
採算DI	▲29.7	▲39.8	▲40.1	▲41.8	—	—

総合の業況DIは、前期比2.7ポイント低下の▲40.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.3ポイント低下の▲27.7、また、採算DIは同1.7ポイント低下の▲41.8となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比0.8ポイント低下の▲41.2、半年後は同2.5ポイント上昇の▲37.9を見込んでいます。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲25.8	▲24.3	▲28.2	▲29.8	▲32.6	▲28.8
売上DI	▲12.9	▲19.2	▲19.3	▲19.8	—	—
採算DI	▲27.4	▲31.2	▲42.6	▲39.3	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比1.6ポイント低下の▲29.8となった。

経営状況では、売上DIは、前期比0.5ポイント低下の▲19.8、採算DIは同3.3ポイント上昇の▲39.3となった。

「原材料費、電気料、工作油代、その他経費の値上がり対前年比40%以上に上がり、経営に悪影響がある。」「世界情勢不安定並びに為替影響で、エネルギー価格の高騰が止まらず、月を追う毎に価格が上昇している事から、価格UP分の差損負担が大きい。価格転嫁を行っているが、追いつかない。」「売上げの伸長でコスト増をカバーしてきたが、受注が落ち着いてくると、利益が出にくくなる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.8ポイント低下の▲32.6、半年後は同1.0ポイント上昇の▲28.8を見込んでおり、「コロナの影響をまだ客先が受けているようで注文量が増えてこない。新商品の開発後も販売ルートを探すのに苦労している。」「全く先が見通せない状況なので、不安だけが先走っている感じです。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
一般機械	▲20.9	▲13.2	▲22.1	▲27.6	▲30.2	▲29.1
電気機械	▲16.7	▲23.6	▲16.9	▲19.5	▲33.8	▲27.6
輸送用機械	▲36.8	▲39.6	▲45.3	▲30.9	▲24.5	▲22.6
その他	▲30.3	▲27.0	▲32.2	▲37.4	▲37.2	▲32.2

中分類で見ると、一般機械は前期比5.5ポイント低下の▲27.6、電気機械は同2.6ポイント低下の▲19.5、輸送用機械は同14.4ポイント上昇の▲30.9となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比2.6ポイント低下の▲30.2、電気機械が同14.3ポイント低下の▲33.8、輸送用機械は同6.4ポイント上昇の▲24.5、半年後は一般機械が同1.5ポイント低下の▲29.1、電気機械が同8.1ポイント低下の▲27.6、輸送用機械は同8.3ポイント上昇の▲22.6を見込んでいる。

<建設業>

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲16.8	▲7.3	▲16.8	▲21.3	▲18.2	▲18.3
売上DI	▲14.3	▲20.6	▲37.8	▲18.0	—	—
採算DI	▲22.6	▲30.4	▲37.3	▲35.2	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比4.5ポイント低下の▲21.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比19.8ポイント上昇の▲18.0、採算DIは同2.1ポイント上昇の▲35.2となった。

「材料仕入れ単価が高騰していて、工事価格に転嫁できない。」「工事の引き合いはあるが、先行き不透明でなかなか着手しない。少しずつ、全体的に工事が先延ばしになっている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.1ポイント上昇の▲18.2、半年後は同3.0ポイント上昇の▲18.3を見込んでおり、「コロナの関係で予定変更が有り、受注に対し今まで以上に前向に考える。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲50.8	▲55.9	▲48.5	▲51.2	▲51.8	▲48.0
売上DI	▲22.9	▲50.7	▲22.6	▲34.7	—	—
採算DI	▲32.9	▲47.2	▲39.2	▲44.8	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.7ポイント低下の▲51.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比12.1ポイント低下の▲34.7、採算DIは同5.6ポイント低下の▲44.8となった。「原材料の高騰、円安により仕入価格は上がっていますが、全てを売価に転嫁するのは簡単ではない状況です。」「これだけコロナが続くと、お客様の購買意欲もあまりない様に思う。全体的に縮小傾向にある。」「コロナウイルス感染拡大第7波の影響で、6月頃客足が戻ってきたように思えたが、予約がほとんどキャンセルとなりました。時短営業協力金も出ず、資金繰りがひっ迫している状況です。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.6ポイント低下の▲51.8、半年後は同3.2ポイント上昇の▲48.0を見込んでいる。「コロナの影響でお客様の来店数が少なくなり、人の動きが少なくなり、それがなかなか戻りがない。コロナの終息後も、お客様の来店は戻らないかも」「仕入価格は上げ止まり。販売価格も上げ止まり。今後の見通しは不透明です。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
卸売業	▲48.1	▲45.2	▲42.7	▲46.7	▲51.4	▲48.1
小売業	▲60.1	▲63.1	▲56.6	▲60.9	▲62.6	▲58.0
飲食店	▲63.5	▲84.8	▲48.6	▲63.5	▲66.7	▲55.7
サービス業	▲30.3	▲35.1	▲39.4	▲31.6	▲25.6	▲27.1

業種別では、卸売業は前期比4.0ポイント低下の▲46.7、小売業は同4.3ポイント低下の▲60.9、飲食店は同14.9ポイント低下の▲63.5、サービス業は同7.8ポイント上昇の▲31.6となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比4.7ポイント低下の▲51.4、小売業は同1.7ポイント低下の▲62.6、飲食店は同3.2ポイント低下の▲66.7、サービス業は同6.0ポイント上昇の▲25.6、半年後では卸売業が同1.4ポイント低下の▲48.1、小売業は同2.9ポイント上昇の▲58.0、飲食店は同7.8ポイント上昇の▲55.7、サービス業は同4.5ポイント上昇の▲27.1を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和3年	令和4年				令和5年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
中規模	業況DI	▲30.5	▲35.9	▲29.3	▲33.4	▲34.7	▲32.1
	売上DI	▲9.3	▲32.5	▲15.1	▲21.1	—	—
	採算DI	▲27.1	▲37.4	▲36.3	▲39.8	—	—
小規模	業況DI	▲47.0	▲43.3	▲47.1	▲48.1	▲48.6	▲44.6
	売上DI	▲28.9	▲41.2	▲32.8	▲35.1	—	—
	採算DI	▲32.8	▲42.6	▲44.4	▲44.0	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比4.1ポイント低下の▲33.4、小規模企業は同1.0ポイント低下の▲48.1となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比6.0ポイント低下の▲21.1、採算DIが同3.5ポイント低下の▲39.8、小規模企業は売上DIが同2.3ポイント低下の▲35.1、採算DIが同0.4ポイント上昇の▲44.0となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比1.3ポイント低下の▲34.7、半年後が同1.3ポイント上昇の▲32.1、小規模企業は3か月後が同0.5ポイント低下の▲48.6、半年後が同3.5ポイント上昇の▲44.6を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和3年	令和4年				令和5年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
横浜	▲43.7	▲37.6	▲37.5	▲45.2	▲45.3	▲39.0
川崎	▲28.4	▲28.7	▲35.8	▲30.1	▲38.2	▲32.5
横須賀	▲26.0	▲36.2	▲44.3	▲39.2	▲46.7	▲46.7
平塚	▲44.2	▲41.7	▲46.5	▲48.6	▲49.5	▲46.8
藤沢	▲29.8	▲37.5	▲18.2	▲22.5	▲26.7	▲25.7
相模原	▲36.8	▲45.2	▲36.6	▲43.5	▲40.2	▲41.8
厚木	▲38.5	▲36.8	▲33.6	▲38.4	▲38.7	▲37.6
足柄上・西湘	▲50.5	▲56.9	▲51.0	▲49.0	▲38.0	▲33.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比7.7ポイント低下の▲45.2）、川崎地区（同5.7ポイント上昇の▲30.1）、横須賀地区（同5.1ポイント上昇の▲39.2）、平塚地区（同2.1ポイント低下の▲48.6）、藤沢地区（同4.3ポイント低下の▲22.5）、相模原地区（同6.9ポイント低下の▲43.5）、厚木地区（同4.8ポイント低下の▲38.4）、足柄上・西湘地区（同2.0ポイント上昇の▲49.0）となり3地区で上昇し、5地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比0.1ポイント低下の▲45.3）、川崎地区（同8.1ポイント低下の▲38.2）、横須賀地区（同7.5ポイント低下の▲46.7）、平塚地区（同0.9ポイント低下の▲49.5）、藤沢地区（同4.2ポイント低下の▲26.7）、相模原地区（同3.3ポイント上昇の▲40.2）、厚木地区（同0.3ポイント低下の▲38.7）、足柄上・西湘地区（同11.0ポイント上昇の▲38.0）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比6.2ポイント上昇の▲39.0）、川崎地区（同2.4ポイント低下の▲32.5）、横須賀地区（同7.5ポイント低下の▲46.7）、平塚地区（同1.8ポイント上昇の▲46.8）、藤沢地区（同3.2ポイント低下の▲25.7）、相模原地区（同1.7ポイント上昇の▲41.8）、厚木地区（同0.8ポイント上昇の▲37.6）、足柄上・西湘地区（同16.0ポイント上昇の▲33.0）となり5地区で上昇し、3地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和4年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		344	122	108	232	74	137	551	1,017
業況判断	現在の業況	▲29.8	▲21.3	▲46.7	▲60.9	▲63.5	▲31.6	▲51.2	▲40.4
	3ヶ月後の業況	▲32.6	▲18.2	▲51.4	▲62.6	▲66.7	▲25.6	▲51.8	▲41.2
	半年後の業況	▲28.8	▲18.3	▲48.1	▲58.0	▲55.7	▲27.1	▲48.0	▲37.9
経営状況	売上	▲19.8	▲18.0	▲33.3	▲42.9	▲41.9	▲18.2	▲34.7	▲27.7
	採算	▲39.3	▲35.2	▲40.7	▲50.6	▲62.2	▲28.7	▲44.8	▲41.8
	引き合い/客数	▲12.7	▲19.2	▲25.2	▲52.8	▲59.5	▲22.8	▲40.9	▲28.8
	単価	12.6	5.8	▲14.8	▲31.9	▲41.1	▲9.5	▲24.1	▲8.1
	仕入価格	▲86.0	▲83.5	▲86.0	▲79.9	▲93.2	▲57.6	▲77.5	▲81.1
	資金繰り	▲30.7	▲17.5	▲36.1	▲39.4	▲57.5	▲17.6	▲35.8	▲31.9
	残業	▲17.9	▲11.6	▲14.0	▲20.8	▲22.2	▲15.4	▲18.3	▲17.4
	設備稼働	▲18.5	▲8.7	—	—	—	—	—	▲16.0
前期経営実績	売上水準	▲22.7	▲25.4	▲34.3	▲47.4	▲47.9	▲28.7	▲40.3	▲32.5
	利益水準	▲8.8	▲8.3	▲25.0	▲34.2	▲36.1	▲13.2	▲27.4	▲18.8
	在庫	12.2	▲9.8	14.2	▲7.0	4.1	▲9.7	▲1.9	2.0
	投資	▲12.5	▲5.2	▲19.4	▲12.6	▲18.1	▲11.0	▲14.3	▲12.6
	雇用状況	▲17.2	▲43.7	▲8.5	▲13.3	▲26.4	▲33.6	▲19.1	▲21.4

参考<前回調査> 景気動向調査 (令和4年4月～6月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		337	127	103	230	72	137	542	1,006
業況判断	現在の業況	▲28.2	▲16.8	▲42.7	▲56.6	▲48.6	▲39.4	▲48.5	▲37.7
	3ヶ月後の業況	▲30.9	▲38.6	▲50.0	▲57.3	▲44.3	▲32.1	▲47.8	▲41.0
	半年後の業況	▲27.8	▲38.1	▲43.6	▲50.7	▲40.6	▲26.9	▲42.0	▲36.8
経営状況	売上	▲19.3	▲37.8	▲17.5	▲34.6	8.3	▲22.6	▲22.6	▲23.4
	採算	▲42.6	▲37.3	▲42.7	▲44.7	▲36.6	▲28.7	▲39.2	▲40.1
	引き合い/客数	▲17.6	▲26.4	▲20.4	▲35.2	▲4.5	▲16.2	▲23.6	▲22.0
	単価	8.7	6.3	1.0	▲30.0	▲15.5	▲4.4	▲15.7	▲4.7
	仕入価格	▲85.7	▲83.3	▲80.6	▲75.3	▲88.6	▲55.0	▲73.1	▲78.6
	資金繰り	▲26.9	▲12.1	▲36.9	▲37.7	▲32.9	▲25.7	▲33.9	▲28.8
	残業	▲18.2	▲23.0	▲21.6	▲15.6	▲17.4	▲15.6	▲17.0	▲18.1
	設備稼働	▲21.6	▲11.7	—	—	—	—	—	▲18.9
前期経営実績	売上水準	▲15.1	▲7.1	▲41.7	▲46.3	▲58.3	▲23.4	▲41.2	▲28.2
	利益水準	1.5	9.4	▲24.5	▲36.0	▲45.8	▲11.0	▲28.8	▲13.8
	在庫	8.9	▲5.1	19.8	▲9.7	0.0	▲5.8	▲1.7	1.5
	投資	▲8.4	▲9.2	▲15.0	▲17.0	▲20.0	▲8.0	▲14.8	▲11.9
	雇用状況	▲14.9	▲36.5	▲2.0	▲17.9	▲27.1	▲29.5	▲19.0	▲19.8

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		184	160	63	59	289	262	536	481
業況判断	現在の業況	▲21.2	▲39.9	▲7.9	▲35.6	▲46.9	▲55.9	▲33.4	▲48.1
	3ヶ月後の業況	▲29.0	▲37.0	▲3.2	▲34.5	▲45.4	▲58.8	▲34.7	▲48.6
	半年後の業況	▲26.2	▲32.0	▲7.9	▲29.8	▲41.4	▲55.3	▲32.1	▲44.6
経営状況	売上	▲17.4	▲22.6	▲1.6	▲35.6	▲27.7	▲42.5	▲21.1	▲35.1
	採算	▲40.8	▲37.6	▲23.8	▲47.5	▲42.7	▲47.1	▲39.8	▲44.0
	引き合い/客数	▲11.0	▲14.7	▲1.6	▲37.9	▲35.4	▲46.9	▲23.1	▲35.2
	単価	15.2	9.6	3.2	8.6	▲14.7	▲34.5	▲2.3	▲14.7
	仕入価格	▲86.9	▲85.0	▲79.4	▲87.9	▲72.4	▲83.0	▲78.3	▲84.3
	資金繰り	▲24.6	▲37.8	▲9.7	▲25.9	▲32.4	▲39.5	▲27.1	▲37.3
	残業	▲15.8	▲20.5	▲4.8	▲19.0	▲15.7	▲21.3	▲14.4	▲20.7
	設備稼働	▲15.8	▲21.7	▲3.2	▲15.4	—	—	▲12.6	▲20.1
前期経営実績	売上水準	▲15.8	▲30.6	▲7.9	▲44.1	▲33.3	▲47.9	▲24.3	▲41.7
	利益水準	0.5	▲19.7	6.3	▲24.1	▲18.5	▲37.3	▲9.0	▲29.9
	在庫	17.6	5.9	▲4.8	▲16.0	0.4	▲4.3	5.8	▲2.2
	投資	▲6.0	▲20.1	4.8	▲17.0	▲10.5	▲18.4	▲7.1	▲18.8
	雇用状況	▲17.4	▲17.0	▲49.2	▲37.5	▲23.9	▲13.8	▲24.6	▲17.7

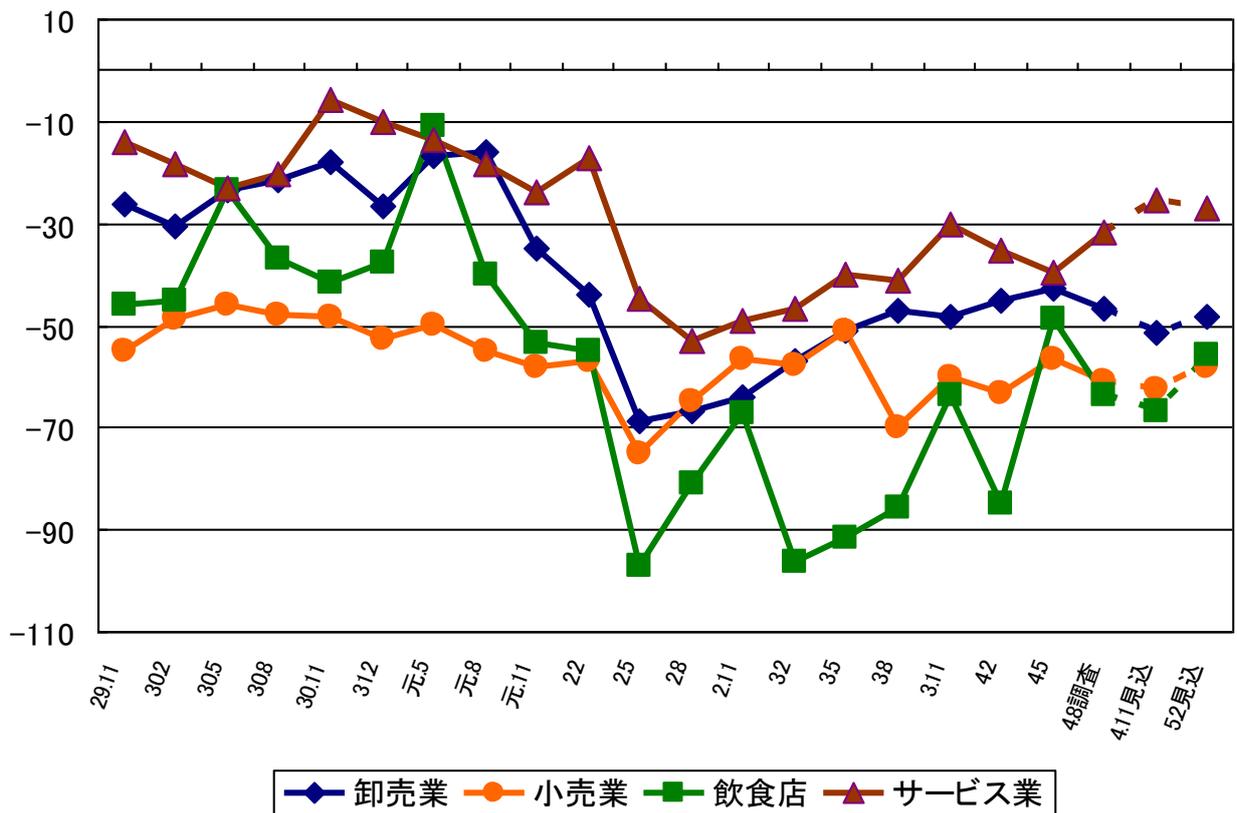
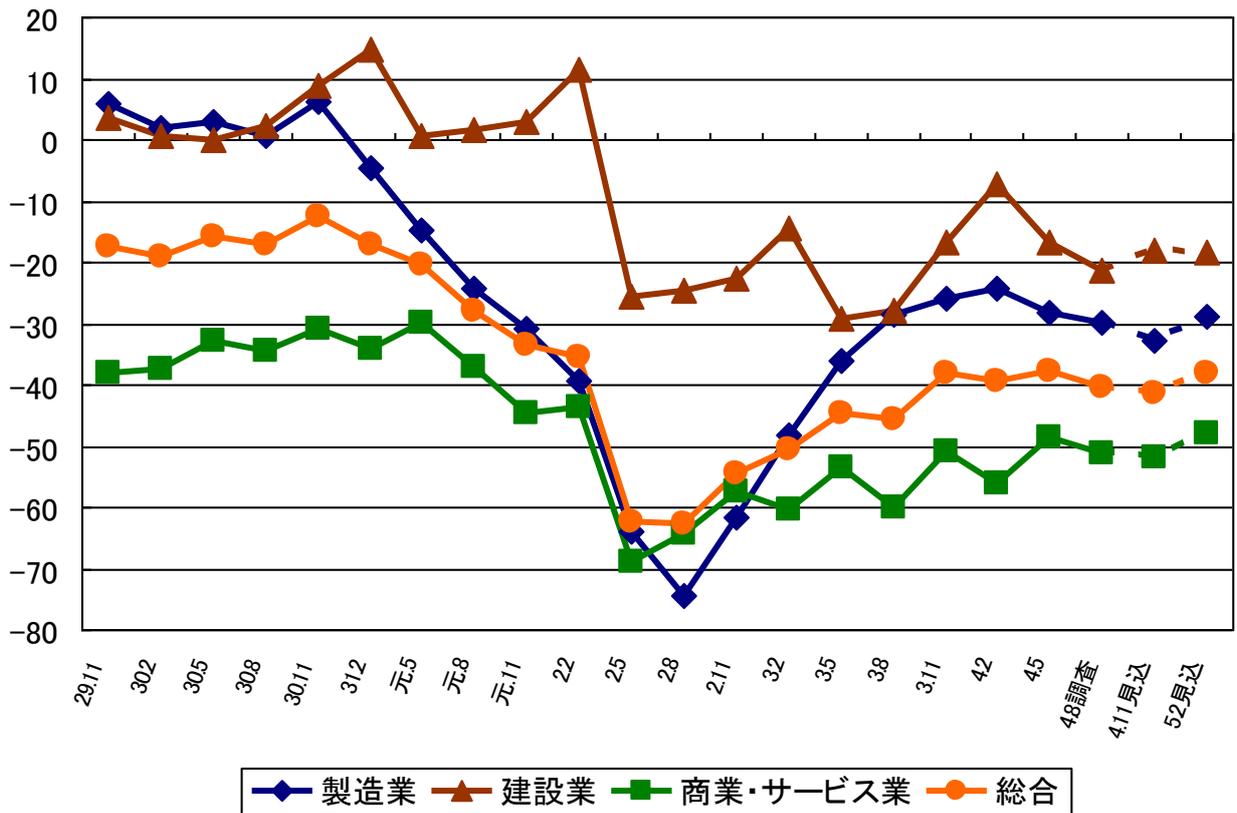
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		273	124	97	112	103	93	112	103	1,017
業況判断	現在の業況	▲45.2	▲30.1	▲39.2	▲48.6	▲22.5	▲43.5	▲38.4	▲49.0	▲40.4
	3ヶ月後の業況	▲45.3	▲38.2	▲46.7	▲49.5	▲26.7	▲40.2	▲38.7	▲38.0	▲41.2
	半年後の業況	▲39.0	▲32.5	▲46.7	▲46.8	▲25.7	▲41.8	▲37.6	▲33.0	▲37.9
経営状況	売上	▲32.0	▲26.6	▲33.0	▲30.4	▲19.4	▲25.0	▲29.5	▲18.4	▲27.7
	採算	▲41.0	▲39.8	▲37.5	▲44.6	▲42.7	▲47.3	▲47.3	▲35.3	▲41.8
	引き合い/客数	▲35.6	▲23.0	▲29.2	▲29.5	▲27.2	▲21.7	▲20.7	▲34.0	▲28.8
	単価	▲12.3	▲2.5	▲7.3	▲13.4	▲8.7	▲5.4	▲1.8	▲7.8	▲8.1
	仕入価格	▲83.5	▲76.2	▲76.3	▲83.8	▲85.4	▲78.0	▲82.7	▲78.4	▲81.1
	資金繰り	▲36.8	▲27.6	▲29.2	▲36.0	▲21.4	▲35.5	▲26.1	▲35.6	▲31.9
	残業	▲19.9	▲13.0	▲16.0	▲13.5	▲13.6	▲23.9	▲21.8	▲14.7	▲17.4
	設備稼働	▲15.0	▲14.5	▲17.5	▲2.1	▲14.9	▲17.6	▲25.0	▲22.0	▲16.0
前期経営実績	売上水準	▲32.5	▲30.6	▲40.2	▲38.4	▲16.5	▲31.2	▲30.4	▲40.8	▲32.5
	利益水準	▲17.4	▲16.3	▲25.3	▲26.8	▲5.8	▲14.0	▲15.5	▲32.0	▲18.8
	在庫	3.1	3.4	▲3.2	▲1.8	1.0	8.7	1.8	2.0	2.0
	投資	▲15.7	▲6.7	▲12.8	▲17.1	▲7.8	▲11.8	▲10.3	▲14.9	▲12.6
	雇用状況	▲18.8	▲24.6	▲25.3	▲23.4	▲28.2	▲10.9	▲24.1	▲18.4	▲21.4

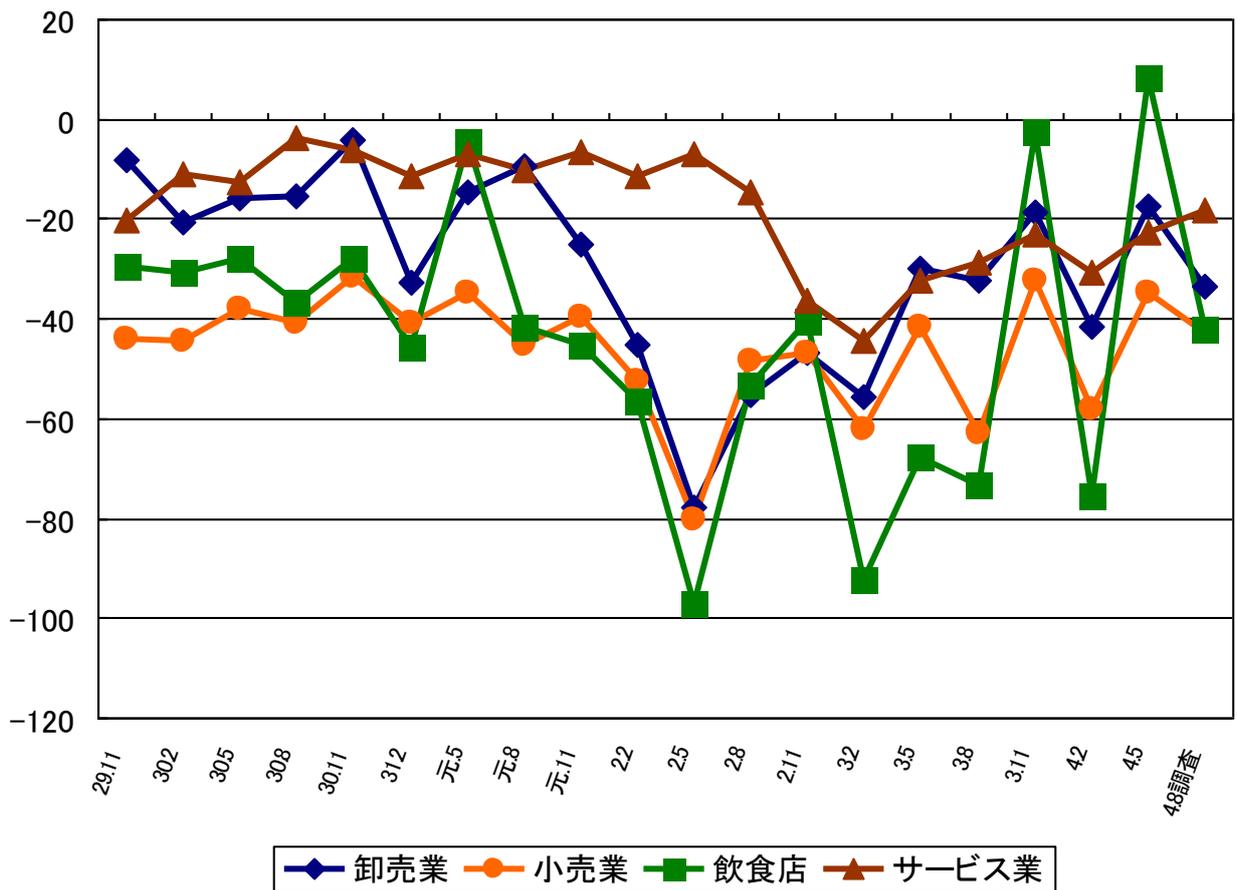
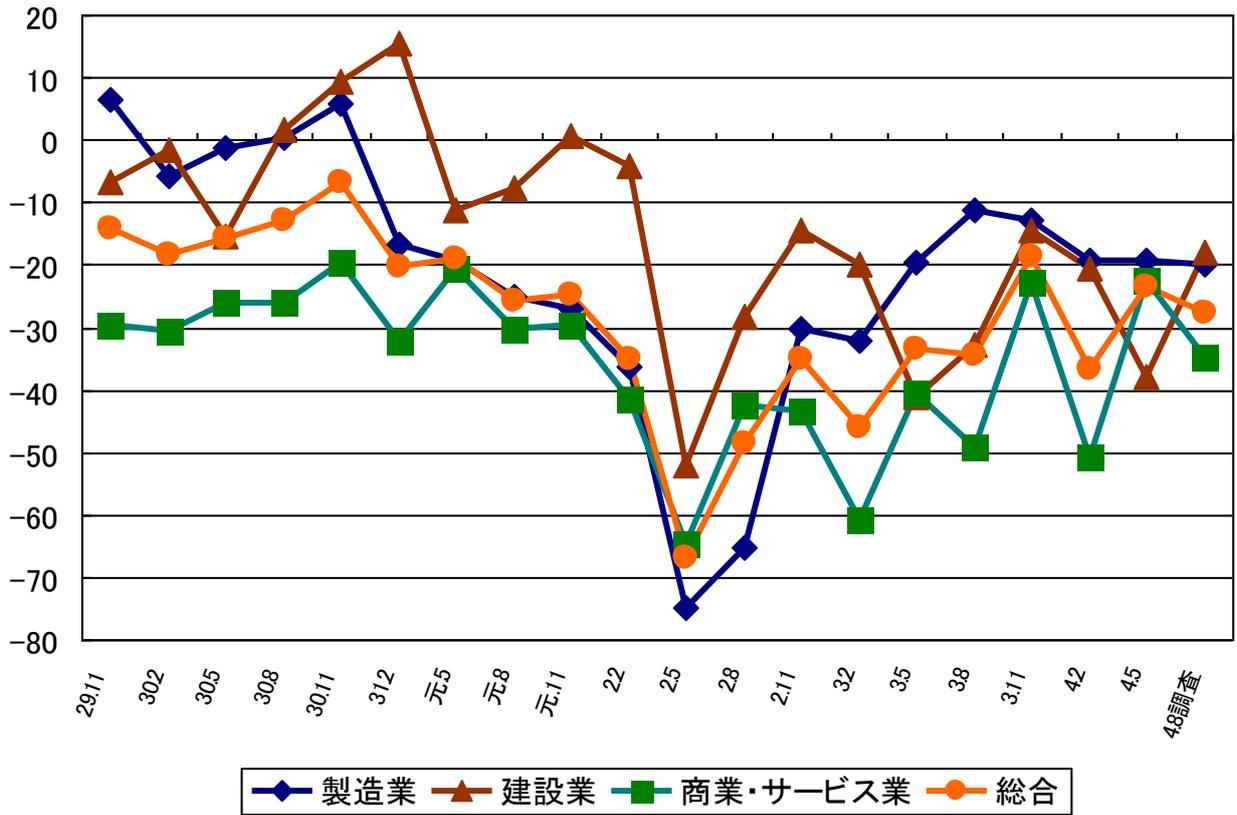
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		89	77	55	123	344
業況判断	現在の業況	▲27.6	▲19.5	▲30.9	▲37.4	▲29.8
	3ヶ月後の業況	▲30.2	▲33.8	▲24.5	▲37.2	▲32.6
	半年後の業況	▲29.1	▲27.6	▲22.6	▲32.2	▲28.8
経営状況	売上	▲28.1	▲9.1	▲13.0	▲23.6	▲19.8
	採算	▲40.9	▲41.6	▲35.2	▲38.5	▲39.3
	引き合い/客数	▲16.1	3.9	▲22.2	▲16.7	▲12.7
	単価	6.8	6.5	14.8	19.7	12.6
	仕入価格	▲81.8	▲84.0	▲81.1	▲92.5	▲86.0
	資金繰り	▲19.3	▲21.1	▲37.7	▲41.8	▲30.7
	残業	▲25.0	▲11.7	▲5.7	▲22.1	▲17.9
	設備稼働	▲25.3	▲9.1	▲13.0	▲22.1	▲18.5
前期経営実績	売上水準	▲14.6	▲18.2	▲32.7	▲26.8	▲22.7
	利益水準	3.4	▲3.9	▲24.1	▲13.9	▲8.8
	在庫	9.3	7.9	11.3	17.5	12.2
	投資	▲5.7	▲18.2	▲18.2	▲11.4	▲12.5
	雇用状況	▲30.7	▲11.7	▲18.2	▲10.6	▲17.2

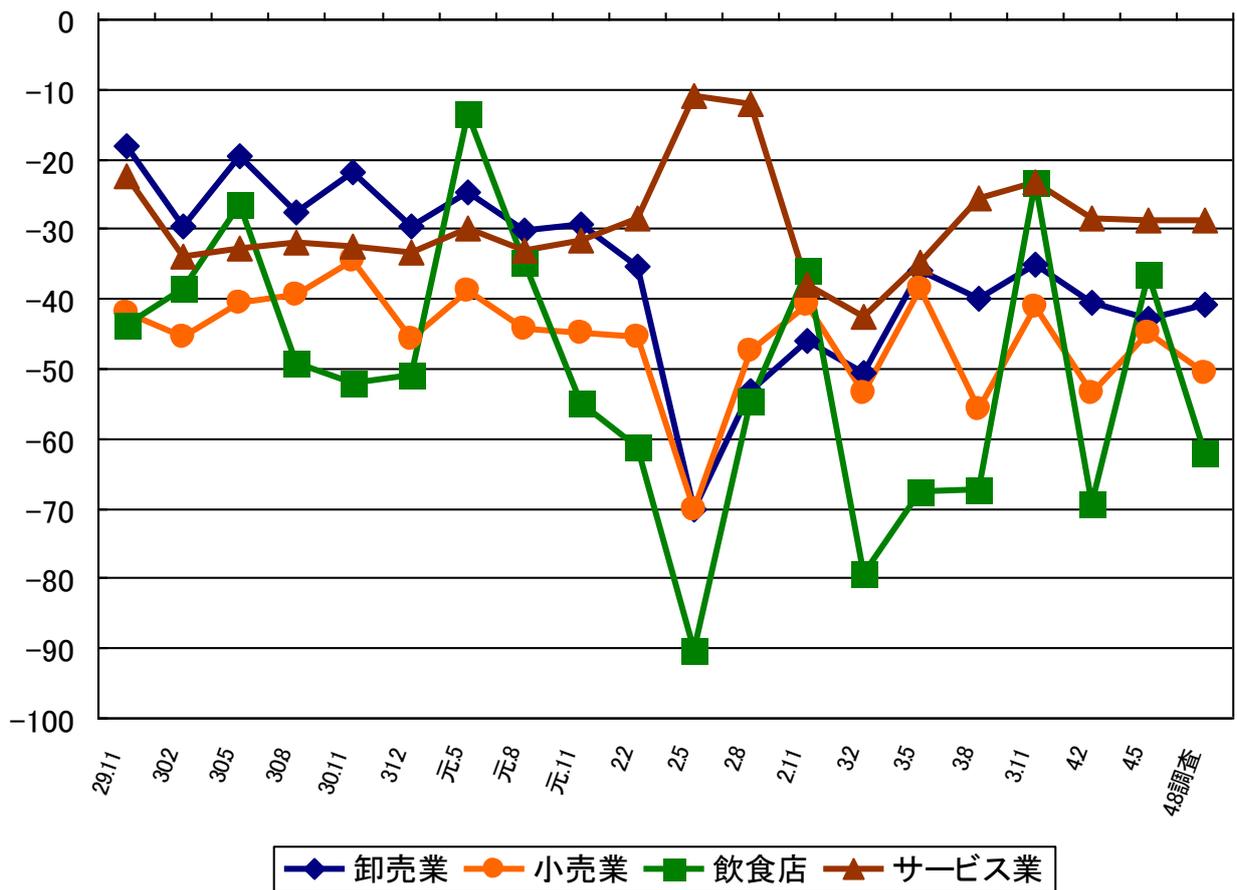
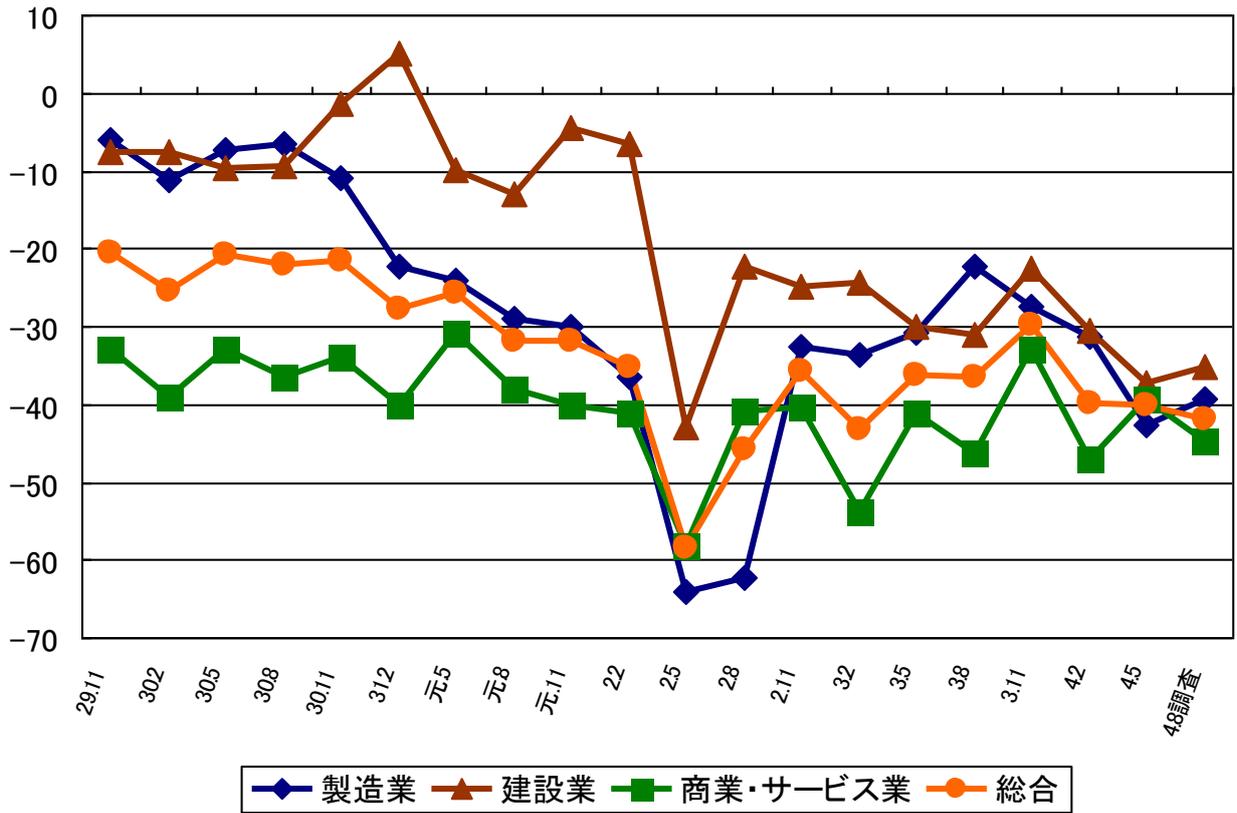
業況DIの推移



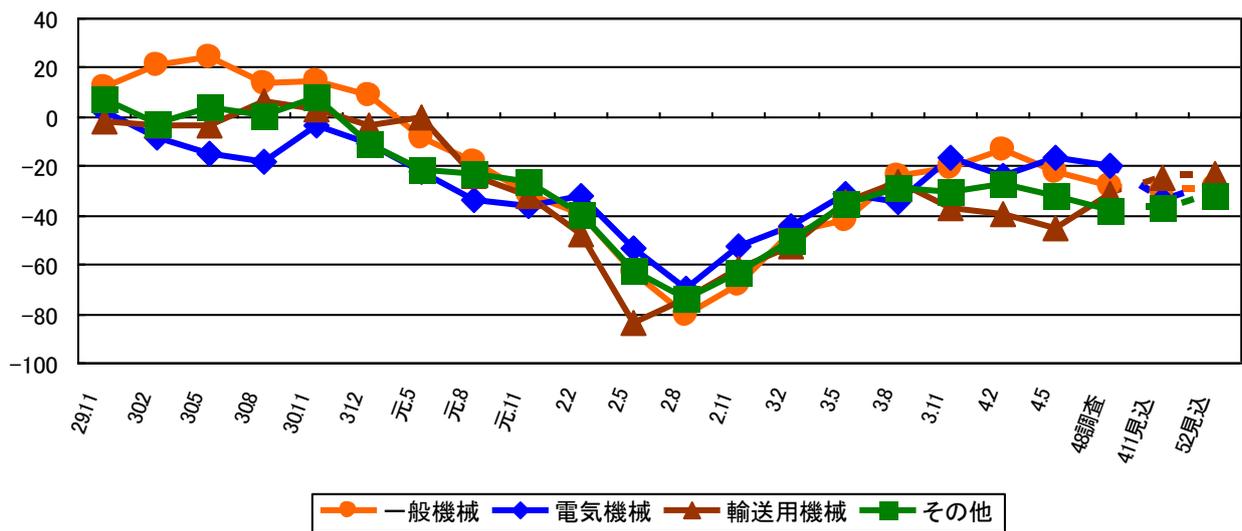
売上DIの推移



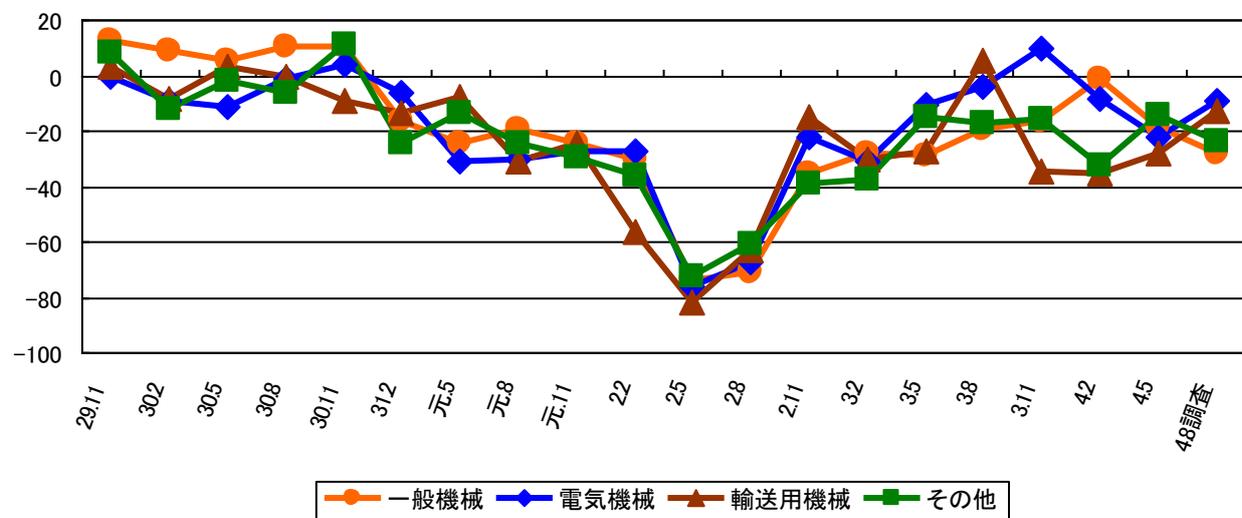
採算DIの推移



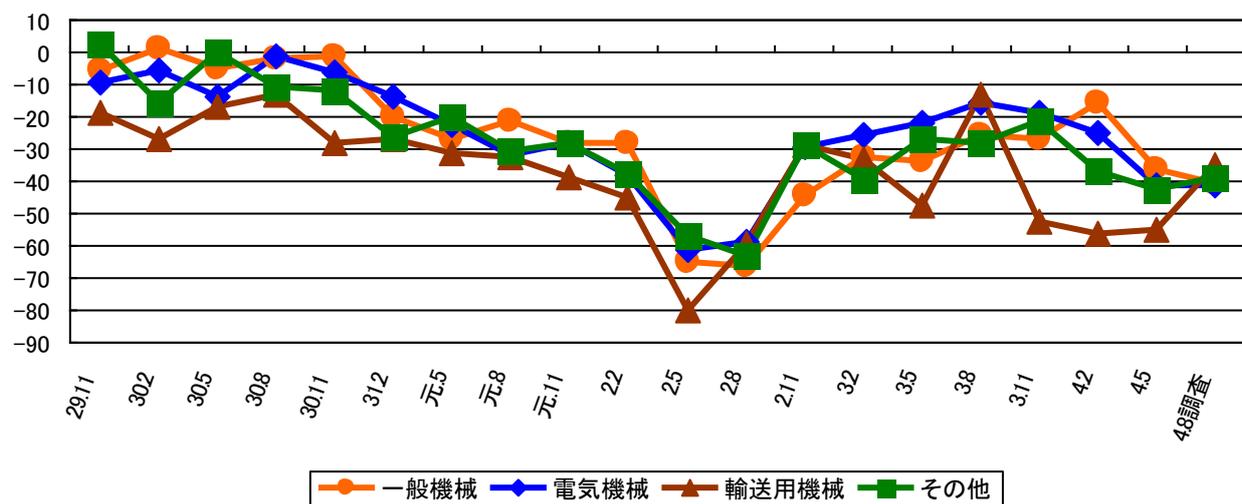
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「ウクライナ情勢等により、STOPしている製品があり、部品も在庫過剰により止まっているものもあります。1日も早く、世界中が平和になって欲しいものです。」
「仕入単価、特にステンレス材の上昇が高くなるが、それを納入単価に取り入れる事が難しく、困っている。」
「鋼材、アルミ、ステンレスの値上げが尋常ではない。見積もった時点と仕入の時点での差が大きく、売上げに転嫁するのが難しい。また、電装部品の仕入は、納期が不能で、いつになったら納品できるか不明である。」
「若手社員を増員したが技能レベルが高くないため、教育に時間を要している。技能経験者を採用したいが、応募者が集まらない。」
「仕入(材料)価格が高騰している。しかし受注単価に転嫁出来ていない。また、伸銅品のリードタイム長期化で、入手困難になっているのも不調の要員の一つになっている。」
「最近の油脂相場の値上がりなどで売上は上昇基調にあるが、同時に原材料の仕入単価も上昇しているため、高付加価値の取り組みなどを含め、売上利益率の更なる改善を進めていくことが課題となる。」
「取引先の大半が外食産業なので、大きな影響を受けていて先行き不安。見通し立たず。資金繰り厳しい。」
「仕入材料100%海外輸入で、円安の影響が大打撃となって、資金繰りを圧迫している。また輸入先の海外工場が、コロナにより人員不足による工場稼働停止などで、製品の入荷遅延による販売計画の大幅なずれが発生している。」
「電子部品の集約が厳しい状況が続き、先の見通しも読みにくい。」
「半導体不足や上海のロックダウンの影響により、自動車生産が滞り、取引先からの製造保留となり、不調となった。但し、秋以降状況改善すれば特に問題無しと判断しています。」
「主要取引先の設備投資が増えている為、案件、受注共に増加している。」
「8月以降得意先からの受注は多くなっていく見通しですが、支給材料の供給に不安があり、安定した生産が可能か厳しい状況です。」
「コロナの影響がとても大きいです。今はネット販売が主流になって来ているので、それに対応出来る事を考えています。」
「半導体枯渇、コロナ禍に於ける諸外国のロックダウンに伴う自動車業界の不振に加え、輸送費、原材料や資材の高騰といった突き上げがあり、非常に苦しい状況。」

<建設業>

「記録的猛暑による夏期工程に遅れがあり今後心配である。」
「仕入材料、ガソリンが高く、いつまで続くのか。」
「受注が減っていますので資金繰りが心配になってきました。今現在は外壁塗り替えの工事があって、何とかやり繰り出来ています。」
「官公庁の受注が多くなっているため、利益が上がっています。民間受注が減少しているため、売上高は減っています。」
「見積及び、受注件数が減っている。特に民間の受注厳しい。」
「競争激化と人手不足のため、経営状況がこの先不調となる。」
「ウッドショックだけではなく、全体的な物価の値上がりも厳しい。原価管理の見直しが必要。」
「民間発注工事がほとんど無くなってしまった。公共工事も最低制限価格での受注のため、なかなか利益が出ない。」
「材料仕入コストの高騰と、入荷遅延により工期厳守が厳しい状況になりつつある。」
「諸材料の値上がりもどこまで続くのか不明のため、不安。大規模案件は2~3年前の見積りで動いているのでゼネコンも厳しいと思うが、下請への圧力も強い。」

<卸売業>

「商品仕入れは100%輸入のため、円安の影響を受けています。販売価格への転嫁はなかなか受け入れてもらえない状態です。」
「7月後半からコロナの影響がでて、売り上げが落ちています。」
「安定しているが先行き状況が見通せない。」
「少しずつ上向きになってきた様に思います。ブレーキがかからない様、少しずつ上向いて行って欲しいです。」
「原材料の高騰や欠品による売上が下がり始めている。」
「円安等により、仕入価格の上昇。販売価格に転換できていない。」
「諸物価高騰による販売不振が見込まれる。」
「4月~6月までは遅れながら材料が入りましたが、7月末より遅れている。」
「製品を海外から輸入しているため替の動向が気になる。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「値上げの秋になりそうです。」
「コロナ、暑さの為か、来店する客がほとんどない。売上がない日が続く。持続（店の営業）できるか不安さえよぎる。コロナが完全に収まり、景気が良くなる様と願う。」
「コロナの影響のため、あまり期待できそうにありません。」
「売上は2019年のコロナ前に戻った感じです。今現在、非常に人手不足です。人が長続きしなくなってきており、やりにくいです。」
「仕入が高くなっているが、販売単価が上がらない。利益率が下がっている。客先も経費を絞っている為、難しい。」
「仕入価格はじめ諸経費全てが値上げされる中、果たして売価を上げることが出来るのか？お客様に納得していただけるのか大きな問題です。」
「今月に入ってからも10月、11月からの値上げ通知が来ている。しかし業務用のお客様にはその都度商品の値上げが出来ない。ますます利益が縮小傾向に向いている。」
「補助金活用に寄り引き合いで売上増に繋がっているが利益確保が難しい。客の購買力の低下を感じる。」
「車の販売台数減少に伴い売上減少。半導体の問題など見通しは暗い。」
「仕入価格が高くなっていて商品価格を値上げせざるを得ないが、お客様のことを考えるとそこまでの値上げもできず、コロナで客数が減っているのが厳しい。」
「新型コロナオミクロンの急速拡大と、食品を中心とした消費者物価の上昇が、売上げ悪化に繋がらないか不安です。原材料と包装資材の値上がりも顕著なので、秋以降自社製品価格も値上げしますが、売上げと採算を維持できるかも不透明です。」
「仕入価格の高騰で値上げをせざるを得なく値上げしたが、まだ仕入価格が上がり続けている。」
「原材料の高騰等、不確定要素が多く、先行きが不透明な状態が続くと思われます。」
「ガソリン代の高騰で経費の増加、輸送コストの値上がり（陸送代）、電子部品の不足による新車の納期の遅れ等、自動車販売業にはあまり良い状況ではありません。」

<飲食店>

「ようやく客足が戻りつつあります。ただ原材料の高騰に困っています。油、天粉、エビ、魚、野菜など、せっかくの純益が消えていく。」
「すべてコロナ次第です。」
「この暑さの為か昼間の客足が少ないようだ。」
「ディナータイムの家族連れはなくなりました。」
「コロナ第7波で客が減っている。もう支援金が出ないのでこのままコロナが続くと立ち行かない。」
「募集しても中々働き手が来ない。人材の確保が大変です。不安。」
「コロナに振り回されている。5月～6月、多少売上げは戻ったが、7月後半より大口キャンセルで、ほぼ宴会、ケータリングが0になる。」
「コロナの終息を願う。仕入価格の高騰に加え、電気代も高騰で利益を圧迫している。」
「新型コロナウイルスにより売上がなかなか戻らないうえ、最近の感染者数の増加によりさらに減少傾向にあります。」
「コロナの再拡大により、国や自治体からの行動制限が出ていないにもかかわらず人出が減り、また団体のキャンセルも相次ぎ、集客が大幅に下がっている。併せて協力金などが無い為に、赤字が続いている。2年間耐えてきましたが、相変わらず外部要因が余りにも大きいために、事業の継続を諦めたくなる。」
「コロナ感染者数が増加すると、売上が減る。せっかく頂いた予約が続々とキャンセルとなる。その繰り返し2年半です。」

<サービス業>

「コロナ禍の影響により、先行き良くなる見通しが立たない。」
「コロナ感染状況によりイベント等で左右されます。」
「夏はエアコン修理で仕事は有ります。（シーズン中だけ。）」
「昨年、比較的高収入の社員の転職者が出た一方、新入社員を2名採用したことで費用は若干増加したものの、売上も微増しており、利益は昨年同等を想定しています。」
「4月の客数減少が戻らず苦戦中。広告宣伝を見直し新規顧客獲得を目指す。電気代高騰。10月の最低賃金アップによる経費増大が不安。」
「コロナの再感染拡大が大きい。加えて、物価高が影響している。」
「需要が多少戻ってきましたが材料費高騰をどれだけ価格に転嫁できるかがこれからの課題。」
「燃料・資材の価格が高騰しているため、利益が圧迫されてきている。」
「引き続き、IT技術者不足が続いています。」
「リモートワークが多くなり、売上現状維持。新人の教育費等が負担となっている。人手不足の状況が進んでおり、現状維持が続く。」